

心房性機能性僧帽弁 閉鎖不全症(Atrial functional MR)の臨床 ～明日からの診療に 活かすために～

企画：窪田 博

(杏林大学 心臓血管外科)



HEART's Selection

最近, “multidisciplinary approach (集学的治療)” という言葉を耳にする機会が増えてきました。専門分野がますます細分化・深化していくなかで、患者さんを疾患単位ではなく全体として、横断的に診る視点の大切さを表していると思います。病態や治療法が複雑に絡み合うときこそ、個々の専門分野の力を持ち寄ることで、よりよい診療につながるのではないのでしょうか。

今回の特集は「心房性機能性僧帽弁閉鎖不全症(Atrial functional MR)の臨床」です。この疾患概念は比較的新しいものですが、心房細動や僧帽弁閉鎖不全だけでなく、左心耳血栓や脳梗塞、さらには三尖弁閉鎖不全症まで視野に入れる必要があります。心エコー、弁膜症、カテーテル、電気生理、心臓外科といった多くのチームが知恵を寄せ合い、治療の“方法”や“組み合わせ”を工夫することが大切で、まさに multidisciplinary approach が力を発揮する疾患といえるでしょう。

本特集では、疾患概念と疫学の整理に加え、WATCHMAN、カテーテルアブレーション、MitraClip、外科治療、さらには経カテーテル的僧帽弁置換術について、第一線でご活躍の先生方に執筆いただきました。明日からの診療のヒントとして、お役に立てていただければこの上ない幸いです。